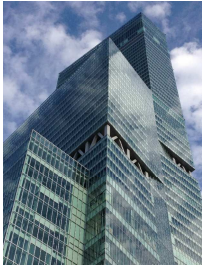




【近況報告】あべのハルカスオープン!



先月はグランフロント大阪に行った記事を書かせていただきましたが、先月13日にあべのハルカスもオープンし、早速行ってまいりました。あべのハルカスがある阿倍野橋駅は事務所から大阪市内に出るときに常に経由する駅でもあるため、実はいつでも行けるところでもございますが、日曜日に仕事での用事があったためについでで寄ってみると多くの人でごった返し、そのほとんどが家族連れであった上、おまけに私のようにスーツで来ている人はほとんどいないために非常な違和感を感じてしまいました。

グランフロントのナレッジキャピタルのような話題性のある施設はありませんでしたが、シースルーのエレベーターや百貨店フロアに隣接する屋上など洒落た内外装になっており、ゆったり時間を過ごすには良いところではないかと感じました。

【現代労務】出店攻勢時代の採用管理対応

コンビニ業界をはじめ、小売業や飲食店なども出店攻勢を強めているという記事を目にする機会が多くなりました。例えば、セブンイレブンは15,000店の出店をし、ファミリーマートでも今年4月に1500店の大量出店計画を発表したばかりです。また、グランフロント大阪に代表されるような大型商業施設の登場も出店競争を強めている要因となっております。それに伴いパート・アルバイト社員の時給相場も上がっており、即戦力となるパート・アルバイト社員は争奪戦の様相を呈しております。

このような状態になると、おしゃれな職場、時給の高い職場、知名度の高い職場に人材が流れ、中小企業ではパート・アルバイト社員の採用と雇用継続が困難な状況となってきます。そうすると単に募集時の時給をアップするだけでは新規採用は困難で、従業員の都合に応じた働き方やシフトが組める工夫をするほか、ほめ育てと良い人間関係の中で働ける職場づくりなど、「気分よく働ける環境づくり」が必要となり、採用時にも求人広告のみならず、ホームページ上の求人ページなどの会社の雰囲気分かるPRページ作りなども必要となってくるようになります。

名言名句の杜

【今回の名言名句】

人間には人間らしい仕事をさせよ。
そのために機械がある。

(土光敏夫)

ご存じ土光敏夫氏は東芝やIHI(石川島播磨重工)で辣腕をふるい「メザシの土光さん」と呼ばれた、昭和の経営史の中で最も愛された経営者の一人です。朝一番から社長室を開け、社員が誰でも入ってこられるようにしたエピソードも有名です。

戦後の工業社会に入ると流れ作業が普及し、人間が機械のように仕事をする「マンマシンモデル」が問題となりました。接客業でもマニュアルが整備され、人間が仕事の中で考えなくなってしまう。職業における人間性回帰の必要性を突いた言葉です。

【編集後記】

小売業が製造業以上に市場で力を持つようになってから久しくなりましたが、最近には特にその傾向が増していると感じる今日この頃です。小売業が持つもの、それはマーケティング力と集客力、そして顧客リスト。もう無口な職人気質では稼げない時代だ。

【作成・発行】

オーダーメイド労務管理事務所

〒584-0007

大阪府富田林市南旭ヶ丘町12-35

特定社会保険労務士 高木 修一

TEL:0721-21-3115

FAX:0721-21-3116